

熊 本 子 と も 囲 碁 便 り

No.17 2013. 5. 18

発行：NPO法人

熊本子ども囲碁普及会設立準備室

託麻囲碁クラブ内 096-382-0174

「第34回少年少女熊本県大会」

県代表決まる！

5月12日（日）熊本日日新聞社において「第34回少年少女熊本県大会」が開催されました。

幼児から中学生までの子どもたちが参加、県代表選抜戦は中学生の部5人、中学生の部8人、段級位認定の部に中学生11人、小学生66人が熱い闘いをくりひろげました。（写真左）

また、「入門教室」が新たに開催され、日本棋院関西総本部の種村小百合二段が講師を務めました。

囲碁に初めて接する子ども達や保護者など約50人が9路盤で囲碁を楽しみました。試合終了後は、指導碁も行われ、多面打ちながら順番待ちができる盛況ぶりでした。（写真右）

結果は下記のとおり（4人は7月30.31日東京での全国大会に出場）



小学生の部	優 勝	高橋慶多（菊陽中部小4年）
	準優勝	前田悠仁（杉上小4年）
中学生の部	優 勝	鶴岡 諭（武蔵中3年）
	準優勝	田中一光（出水中3年）



第6回子ども囲碁交流大会

4月21日（日）熊本市東部市民交流センターにて「第6回子ども囲碁交流大会」が開催されました。

当日は祐徳本因坊ジュニアの部大会と重なったこともあり55名の参加でした。回を重ねるごとに大会運営もスムーズに進み、今回も県庁囲碁部からボランティアで対戦表の組み合わせなどをやっていただき、保護者の方も積極的に設営準備や後片付けなどをしていただきました。感謝申し上げます。

全勝者は次ページのとおり（敬称略）

芦田華・水谷勇斗・矢根紫温・金城翔也・太田圭祐・鹿島知紘・水谷凌也・田中淳人・
内窪清乃・江崎壮磨・井上然心・



“熱心に対局中のチビッコ棋士たち”



「第62回祐徳本因坊戦」熊本県予選・・・ジュニア部門

4月21日(日) 日本棋院熊本県本部にて「第62回祐徳本因坊戦熊本県予選」が開催されました。
中学代表は田中一光くん(出水中3年)・小学代表は高橋慶多くん(菊陽中部小4年)が代表権を得、6月1・2日に佐賀県鹿島市祐徳稲荷神社での本戦に出場します。

なお、一般の部の代表は、私たちの子ども囲碁交流会でお世話になっている県庁囲碁部の箕田健生さんが優勝しました。

2013 TOTOカップジュニア囲碁国際大会

4月28日(日) 2013 TOTOカップジュニア囲碁国際大会熊本県予選が日本棋院熊本県本部にて開催されました。TOTOカップは20級から有段者まで参加できる大会です。5つのパートの分かれてハンディ戦で予選がおこなわれました。(無差別クラスはオール互先)

本戦は8月5日(月)北九州市小倉で山口県を含む九州各県の代表選手、中国、台湾からの招待選手(65名)と対戦します。 代表は下記のとおり(敬称略)

無差別クラス (オール互先)

橋本淳平(熊本高1年)

田中一成(真和高3年)

Aクラス (初段～五段)

1位

田中一光(出水中3年) 五段

2位

高橋慶多(菊陽中部小4年) 三段

Bクラス (1級～5級)

1位

佐々木光将(真和高3年) 2級

2位

矢根凜々花(第二高2年) 1級

Cクラス (6級～10級)

1位

木下智弘(西瀬小4年) 10級

2位

伊藤瑞輝(東町中2年) 6級



Dクラス（11級～20級）	1位	遠藤倫大朗（西原小2年）	16級
	2位	太田圭祐（玉名町小4年）	12級

県立宇土中学校で 囲碁授業

以前より囲碁の教育的効果は高い評価を受けていますが、この度、宇土市の県立宇土中学校（越猪浩樹校長）で総合的な学習で囲碁を導入。講師にNHK「囲碁講座」も務めた石倉昇九段（日本棋院所属）を迎え4月26日（金）1年生（80名）に、初めての授業が行われました。

休憩をはさみ50分授業を2コマ受けた生徒のほとんどが囲碁初体験。囲碁普及会や地元宇土市の囲碁会員達のアドバイスを受けながら楽しい時を過ごしました。宇土中学校ではこの囲碁授業を機に、放課後にも生徒たちに囲碁に親しんでもらい年間を通した活動に発展させたいとのことです。

6年間を通して囲碁を学ぶことになる宇土中学校では近い将来、学校団体戦などでの上位進出も期待できそうです。



囲碁の歴史やルールについて説明する石倉九段

9路盤を使用し楽しく対局する生徒たち



NPO法人熊本子ども囲碁普及会設立総会開催

4月27日（土） 午前10時から佐土原子ども囲碁教室にて特定非営利活動法人（NPO法人）熊本子ども囲碁普及会の設立総会を開催しました。理事11名 監事2名 正会員10名 （委任状6名） 全員出席にて成立。その後理事会を開催し、5月2日に申請書を市役所に提出しました。

認可後は、県内で子供達への囲碁普及が広く行えることになります。関係者の皆さまのますますのご協力をお願い致します。

なお、今まで「熊本子ども囲碁普及会」としていた名称を「NPO法人 熊本子ども囲碁普及会設立準備室」に変更いたします。

佐土原子ども囲碁教室

(熊本市東区佐土原 1 丁目 10-1 TEL・FAX 096-367-1707 渡辺利男)

「負けることの辛さ」

“15の春”という言葉がありますが、人生最初の試練が高校受験です。希望校に入れなかった時のショックは大きく、人生で初めて味わう挫折感です。この挫折をバネに大きく成長する人もいますし、人生万事塞翁が馬です。

私の教室では10級以上に強くなると先生に星目でスタートし、2連勝すれば置石を1目ずつ減らしていき、5目で打てるようになったら初段と認めるようにしています。

7子～9子の生徒と打つ時には、何とか気付いてくれないかなと何度もチャンスを与えながら打ちます。しかし、あと一息で初段というクラスには一手の緩手も許さず、厳しくとがめる手を打ちます。

先日、そのレベルの生徒と6子で打った時のことです。黒の地は多く、私の約10目の白石も取られており、黒の大優勢でした。ところが、1手のミスで私の白石が生き返り、同時にそれを囲んでいた黒石が死んでしまい大逆転してしまいました。

呆然と盤面を見つめる生徒の目からは涙がポロポロと流れて止まりません。生徒にとっても私にとってもつらい時間です。しばらくして負けを認めて泣きながら「ありがとうございました」と言いました。

まわりの生徒も黙ってその姿を見ていました。辛い場面ですが、この敗戦から逃げることなく、大きな糧にして頑張ってくれよと、心の中で祈るしかありませんでした。

囲碁の素晴らしさの一つは、負けることの辛さを早い時期に経験して逞しく育っていくことだと思います。

RKKカルチャーセンター子ども囲碁講座

(熊本市東区長嶺南 3-9-1 RKKカルチャーセンター Tel096-383-3900 囲碁講師 藤森常生)

試合が終わって・一言（ひとこと）！

4月21日（日）の第6回囲碁交流大会が終わっての子ども達の一言です。

A君・・・「4勝した。級が上がるのでしょうか！」 先生「もちろん」

B君・・・「シチョウで石とられて負けた」 先生「不注意だな！これも勉強」

C君・・・「4隅（すみ）とって負けた」 先生「碁盤全体（ごばんぜんたい）を見てなかったな」

Dさん・・・「上の級の人に勝ったよ」

先生「良かったね、自信（じしん）がついたろう」

Eさん・・・「負けて悔しい、でも楽しいから今度がんばるよ」

先生 「よろしい、たくさん練習しようね」



囲碁教室『阿蘇一碁一会』・ヒカルの碁スクール『阿蘇』

(阿蘇市一の宮町宮地 6273 番地 6

050-3481-7045

代表 藤崎幸次郎)



内牧小学校（左）と一の宮小学校（右）の囲碁風景です。今年度も行くことになりました。

熊本チビッコ碁友会（託麻囲碁クラブ）

(熊本市東区保田窪 5 丁目 9 - 2 3

TEL 096-382-0174

西山育子・田中信夫)

ゴールデンウィークの 5 月 5 日（日）、託麻囲碁クラブには二人の先生を迎えて指導していただきました。（写真下） この春、見事女流棋士となられた星合志保初段（日本棋院所属）とお兄さんで元院生の星合真吾さんです。連休中でしたが、他の教室からもチビッコ棋士達が参加してくれました。

小学生が終わると、田中一成くん、橋本淳平くんなど高校生のトップ棋士とも対局してもらいました。結果は、残念ながら全員負けてしまいましたが（さすがプロ！）、若いプロの先生（高校一年生）に指導してもらい楽しい思い出に残る連休のひとつを過ごせたのではないかと思います。

星合志保初段は熊本に縁があり、これから先も機会があれば熊本を訪ねたいとの託麻囲碁クラブでも、今からプロの世界で頑張られる星合初段を応援したいと思います。



“星合志保初段と星合真吾さんの指導を受ける子どもたち”

人吉球磨支部子ども囲碁教室

(人吉市西間上町 2569-2 みのだ内科循環器科内 0966-28-3111 支部長 蓑田耕太郎)

平成24年度 東西コミセン講座感想文より紹介します。

いごきょうしつのトーナメントで1いになることとせんせいにかつことがうれしいです。
たいかいで4しょうしたので、トロフィをもらいました。またもらいたいです。
よねだ いぶき (年中)

楽しい囲碁

ぼくは、一年生の時に囲ごをはじめました。囲ごをやっていて一番うれしいのは、
し合でかったときです。かつために、友だちが家にあそびに来た時、いっしょに囲ごをします。
し合では、かつために先を考えてうちます。そのほかにも、先生に囲ごの本をかりて読みます。
囲ご教室では、トーナメントで4、5回ゆうしょうしました。先生にも何回もかちました。
そして、10きゅうから9きゅうになった時に、先生から囲ごのごばんと石をもらいました。
だから、囲ごきょうしつはとても楽しいです。
これから、囲ごの大会にさんかして、ゆうしょうしたいです。

人吉東小3年 福田航平

毎週土曜日 午後1時半から3時

於：東西コミュニティセンター 人吉市城本町 1088 Tel 0966-28-3230

日本棋院人吉球磨支部の会員がやさしく、親切に指導致します。

保護者の参加も大歓迎です！

その他の教室・・・

日本棋院玉名支部初心者教室 (玉名市岩崎 154-1 Tel0968-74-4968 担当 隈部敏)

熊本母と子の囲碁教室 (熊本市東区下江津 3-4-7 Tel096-370-2263 江藤由久子)

一新こども囲碁教室 (熊本市中央区新町 3-4-22 Tel 096-352-7639 代表 毛利秀士)

尾ノ上コミュニティセンターこども教室
(熊本市東区錦ヶ丘 8-20 Tel096-340-8731 指導者 田中信夫)

玉名立願寺楽碁長屋子ども教室 (玉名市立願寺 1362-2 0968-73-9008 松本博)



新たな囲碁教室誕生！

よろしくお願いします 「さくら通り・蓮台寺 親子囲碁交流会」

さくら通り

と き： 毎週水曜日 午後４時～午後７時、

ところ： 熊本市田迎神社近く、麗水館二階

蓮台寺

と き： 月一回 日曜日(前もって連絡いたします) 午後１：３０～午後４：００

ところ： 蓮台寺本堂裏書院にて (熊本市蓮台寺 2-10-1)

問い合わせ先

さくら通り・蓮台寺親子囲碁交流会 代表 坂本新吾 電話 080-3377-0407

メール wadaiko@ongakunomori.net

ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/humanitysingo1978>



囲碁よもやま話～文学の世界に見る囲碁～

後藤 渉 (熊本市帯山在住)

日本人として最初のノーベル文学賞受賞者である川端康成の作品の一つに「名人」がある。世襲制最後の二十一世本因坊秀哉の木谷実七段との引退記念対局を扱った名作である。持ち時間四〇時間という正に死闘ともいうべきこの戦いは碁を単なる勝敗の世界を超越し、芸術の世界まで昇華させた一戦でもあった。結果は木谷の５目勝ちであったが、秀哉はこれを最後の対局として翌年６６歳で生涯を閉じた。

この小説は観戦記者としての視点で「碁」という「静」の世界の激しさと静けさを職業に勝負を選び、死ぬまで「不敗の名人」を演じきった一人の勝負師の人生の結末を見事なまでに描ききった円熟の作品である。氏は生前、本因坊秀哉・木谷実・呉清源・坂田栄男などといった多くの棋士との親交もあり、新聞の観戦記なども多く書いている。川端康成全集（新潮社版）全３５巻のうち第２５巻はすべて囲碁関係の著作でまとめられている。「本因坊秀哉引退碁」をはじめ「本因坊秀哉・呉清源戦」「木谷実・呉清源３番勝負」「呉清源棋談」などその他エッセーなど囲碁関係の作品が満載で囲碁ファンにお薦めの書である。

研鑽会のお知らせ

５月２６日（日）午後１時～ 託麻囲碁クラブにて

６月１６日（日）午後１時～ 日本棋院熊本県本部にて

※５月の駐車場は近くの大劇長嶺店をお借りしています

問い合わせ 田中一成 096-370-1525

いずれもお問い合わせ申込は各教室まで

第10回文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦 熊本県大会

主催 日本棋院熊本県本部

後援 熊本県・熊本県教育委員会

日時 平成25年6月9日(日) 受付9:15～ 開始 10:00

※年間予定では6月2日になっていましたが、変更になりました。

会場 日本棋院熊本県本部 熊本市中央区白山 2-1-1 TEL096-363-4964

会費 1チーム(3人)3000円(昼食・参加賞あり)

小・中学校の優勝校はそれぞれ7月28日・29日全国大会に代表として出場(東京日本棋院にて)

第22回 玉名市長杯囲碁大会

日時 平成25年5月26日(日) 受付9:00～ 開会9:30

会場 玉名市福祉センター 3階ホール

形式 段級制によるハンディ戦 パート別の4回戦対局

主催 日本棋院玉名支部 (後援 玉名市・西日本新聞社)

子どもにもやさしい大会
です。たくさんのチビッ
コ棋士の参加をお待ちし
ます。

「石倉昇九段による囲碁教育」

囲碁を授業に取り入れる大学が増え続けています。先駆けは2005年にスタートした東京大学教養学部での「単位のとれる」囲碁の授業。当初から母校で教壇に立ち、3年後に同大学の客員教授に任命された石倉九段は今も授業を受け持ち熱心に指導されています。

石倉九段は、週刊「碁」(4.15号)で、小学校で囲碁を学ぶよさを「囲碁脳」という言葉を使い、次のように語っています。

「音楽や図工の授業で、音感や絵心が養われる。頃に囲碁脳をつくれば、しばらく囲碁から離れても、いつもでまた囲碁を始めることができます。囲碁脳・・・囲碁で養われた考え方や感性・・・は、社会に出てからの人間関係や仕事にも必ず役に立つと思います」

熊本では、宇土中学校で石倉先生による囲碁授業が行われました。

囲碁8つの効用

- 1.考える力を養う
- 2.コミュニケーション(相手の気持ちを考える)能力を高める
- 3.バランス(相手にも与える)感覚を養う
- 4.忍耐力(苦しい局面を耐える能力)をつける
- 5.集中力を高める
- 6.大局観を養う
- 7.右脳を鍛える(囲碁は感性のゲーム。コンピュータでは解明できない唯一のゲーム)
- 8.礼儀が身につく

編集後記 この一カ月「中学校で初めての囲碁授業」「少年少女熊本県大会で初めての入門教室」「蓮台寺・さくら通り教室・・・子育て視点に立った初めての教室」次はどんな初めての教室が待っているのでしょうか。投稿お待ちします。(記 西山)